

平成19年産粗飼料の傾向

●乾草(1番草)の傾向(表1、図1)

19年産の平均値を見ると、18年産よりも粗蛋白質は低く、ADF、OCW(総繊維)が高い傾向が続いております(表1)。Ob/OCW%から繊維の消化性を見ていくと、19年産平均値は91.9となり18年産平均値92.4に比べて若干低くなっています。しかし、その分布を見ていくとOb/OCW%が92~94に集中しており、全体の分布としては18年産より消化性が悪い方へずれていますので、印象としては、18年産よりも消化性は良くないものと考えます(図1)。

表1 乾草の平均値(乾物%)

	水分	粗蛋白	ADF	OCW	NFC
H19	15.6	7.5	41.9	72.4	16.3
H18	17.3	7.7	41.8	71.5	17.1
H17	17.4	9.1	39.8	67.9	17.6
H16	17.8	9.3	39.7	68.6	14.3
H15	18.3	8.7	39.8	67.7	15.9

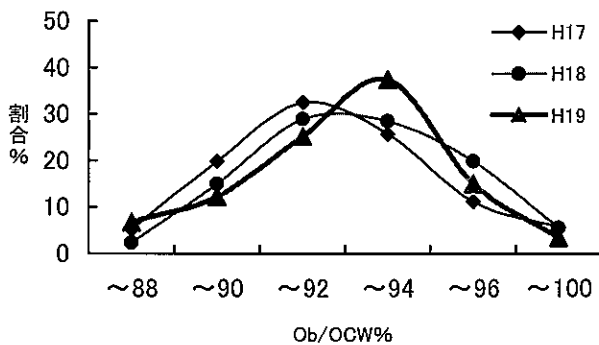


図1 混播乾草のOb/OCW分布

●牧草サイレージ(1番草)の傾向(表2、3、図2)

表2 牧草サイレージの平均値(乾物%)

	pH	水分	粗蛋白	ADF	OCW	NFC
H19	4.28	73.0	11.9	41.5	68.6	11.2
H18	4.37	74.1	12.4	41.1	68.7	10.8
H17	4.23	73.5	13.1	39.1	66.0	12.1
H16	4.21	73.7	13.4	38.1	64.7	12.3
H15	4.10	73.9	12.9	37.9	64.6	12.4

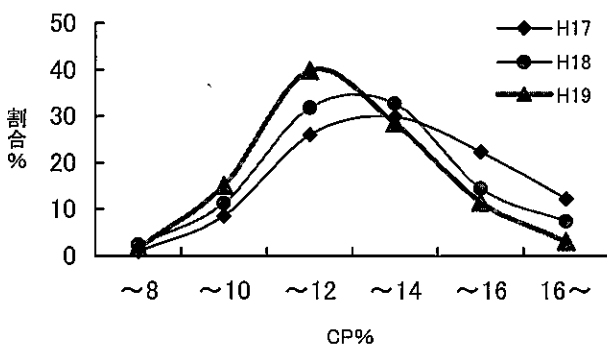


図2 牧草サイレージのCP分布

牧草サイレージ(細切)の粗蛋白質がここ5ヵ年で最も低い結果となっています(表2)。例年、粗蛋白質12%以下のものが全体の30~40%程度を占めますが、18、19年産ではその割合が多く、特に19年産は50%以上にもなります(図2)。19年産のADF、OCWも18年産と同様に非常に高くなっています。

ラップサイレージについては牧草サイレージ(細

切)ほど低粗蛋白質、高繊維の傾向は強くありませんが、同様な傾向が見られています(表3)。

表3 ラップサイレージの平均値(乾物%)

	pH	水分	粗蛋白	ADF	OCW	NFC
H19	4.95	43.9	10.9	40.6	68.0	14.9
H18	4.87	44.5	10.6	41.1	69.0	14.6
H17	4.98	41.0	11.3	37.5	65.2	16.9
H16	4.92	43.7	11.4	36.6	65.1	14.7
H15	4.80	44.0	10.6	36.1	64.3	16.5

●粗飼料の無機成分(表4、5、6)

17、18年産粗飼料のテタニー比が例年より高くなる傾向が見られていました。19年産はその傾向が若干弱まりましたが、まだ高い傾向にあります。テタニー比を上げる要因として、高K、低Ca、低Mgが考えられますが、K、Caの傾向は年により若干の変動が見られます。しかし、Mgについては低い傾向が続いております。

表4 乾草のミネラル平均値(乾物%)

	Ca	P	Mg	K	テタニー比
H19	0.29	0.28	0.17	2.06	1.99
H18	0.24	0.27	0.16	2.13	2.41
H17	0.28	0.31	0.20	2.29	2.12
H16	0.32	0.30	0.20	2.11	1.84
H15	0.33	0.27	0.20	2.08	1.75

表5 牧草サイレージのミネラル平均値(乾物%)

	Ca	P	Mg	K	テタニー比
H19	0.46	0.32	0.21	2.52	1.71
H18	0.43	0.32	0.21	2.43	1.71
H17	0.44	0.35	0.23	2.61	1.71
H16	0.51	0.35	0.24	2.48	1.48
H15	0.52	0.31	0.22	2.35	1.45

表6 ラップサイレージのミネラル平均値(乾物%)

	Ca	P	Mg	K	テタニー比
H19	0.37	0.30	0.19	2.42	1.95
H18	0.32	0.29	0.19	2.31	2.00
H17	0.34	0.33	0.22	2.52	2.04
H16	0.39	0.32	0.22	2.31	1.77
H15	0.40	0.28	0.20	2.21	1.67

●まとめ

19年産粗飼料は粗蛋白質が低く、繊維が非常に高い傾向にあります。無機成分はテタニー比が17、18年産に比べて若干低くなりましたが、まだ高い状況にあります。17~19年産を通じてマグネシウムが低い傾向にあります。マグネシウムは肥培管理の中でも3要素や石灰に比べて、なかなか十分に補給されない場合があります。そのため飼料給与時のミネラルバランスに留意するだけでなく、自給飼料を生産する圃場へのマグネシウム補給についても留意する必要があります。

この内容は全体の傾向です。それぞれの粗飼料の自身は異なるため、分析を行い、その飼料を把握することをお奨めします。(分析グループ 篠田)

雪印種苗株式会社

編集発行人 岡村 一範
本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号

TEL (011)891-5911
FAX (011)891-5774